

2015年3月17日(火) 月刊三重 共同募金のつどい

共同募金の活用内容
寸劇などで伝える
橋西地区市民センターで集い
松阪市共同募金委員会
(辻修会長、17人)と市
社会福祉協議会(田上勝

典会長)は15日午後1時半から、川井町の橋西地区市民センターで、ユニバーションを考える「松阪共同募金の集い」を開いた。

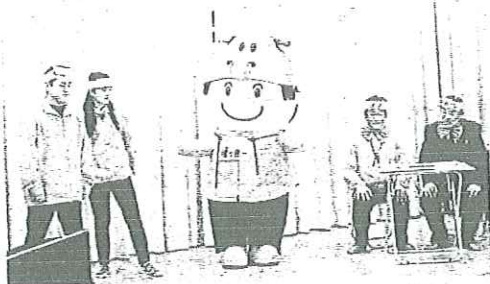
同委員会などでは、共同募金は目的が明らかでも、具体的にどのように活用されているのか分からないという声があるのを受け、募金者の気持ちを活用者に伝える一方、活用者の感謝の気持ちを募金者に届けることで、互いに顔の見える関係を築こうと企画。また善意の寄付金が身近な暮らしの中で活用されていることを知ってもらおうとつどいになればと開いた。

集いでは、初めにMKB(松阪共同募金)劇場が、「募金活動で伝えたかったこと」をテーマに寸劇を披露。その後、本年度の市の赤い羽根共同募金実績報告があり、募金総額は3174万5千円、うち自治会を通じ各家庭の協力で集まった募金が

最多で、約2500万円に上るといふ。

募金総額の2割は県へ行き、残る2539万6千円については、市で福祉活動の応援、防災訓練グッズ貸し出し、在宅介護者の応援、災害見舞金などに活用する計画。

続いて、「募金を集める人」と「募金を活用する人」を代表し、それぞれ飯南町粥見の御深緑茶房の堀川由美店長と、松阪国際交流協会の古市仁理事長が登場。津市NP



MKB劇場による寸劇＝川井町の橋西地区市民センターで

○サポートセンター理事長・川北輝さんの司会で、共同募金にまつわる苦勞など話した。また活用者が感謝の気持ちを伝えるメッセージも披露された。